

# 犯罪被害「不安」増

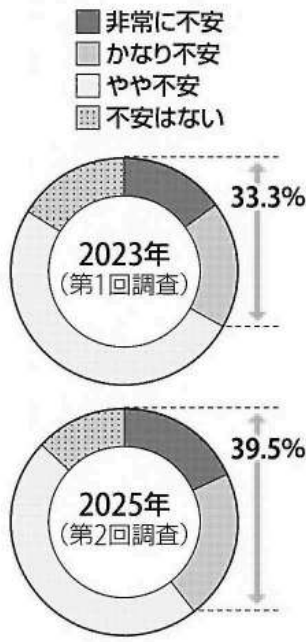
## 淑徳大 読売 ③

### 共同千葉県調査

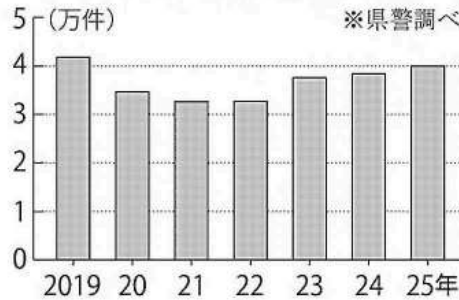
県内の2025年の刑法犯認知件数は3万9976件に上り、前年より1582件増加した。増加は4年連続となる。25年に実施した第2回「淑徳大・読売新聞共同千葉県調査」で、自身や同居家族が犯罪被害に遭う不安について尋ねたところ、23年の第1回調査より6%以上増加した。治安の悪化を身近に感じている人が増えていることがわかった。

第2回調査では第1回調査に続き、県民が抱く犯罪への不安について「非常に不安」

### 自身が犯罪被害に遭う不安



### 県内の刑法犯認知件数の推移



「かなり不安」「やや不安」「不安はない」の4項目で尋ねた。自身が犯罪被害に遭うことについて、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人の割合は39.5%で、第1回調査より6.2%上昇した。同居家族が犯罪被害に遭うことにつ

いては「非常に不安」「かなり不安」と答えた人の割合が48.7%と半数近くに達し、第1回調査より6.4%増加した。

犯罪への不安は刑法犯認知件数が増加していることに加え、犯罪報道に触れることなどで増幅されるとみられる。体感治安が悪化し、犯罪への不安が高まれば、生活の質が低下する恐れがある。一方で、防犯意識の向上につながる面もある。安心して暮らせる社会実現のため、犯罪への不安の動向を丁寧に見極め、把握することが重要だ。

◇ 調査では、犯罪の種類別に不安の程度を尋ねた。「非常に不安」「かなり不安」と回答した人の割合は、「自宅への泥棒」(39.7%、第1回調査比5.7%増)、「生命に関わる犯罪(殺人や放火・テロなど)」(37.3%、同5.2%増)、「自分の乗り物や持ち物に対する窃盗」(36.7%、同3.9%増)、「ひったくり・恐喝・痴漢など屋外での犯罪」(36.6%、同5.7%増)、「電話de詐欺」や悪質商法(35.8%、同5.9%増)、「自宅や自動車などの落書き・損壊」(34.7%、同4.6%増)の順が多かった。

◇ 全国的に被害が問題となっているのが「電話de詐欺」だ。県内の25年の被害額は前年比1.7倍の73億3850万円、統計を取り始めた04年以降最悪となった。件数は前年比27%増の1206件だった。

これまで高齢者が主な標的とされてきたが、被害は若年層にも拡大。偽造した警察手帳や逮捕状をSNS上で示して金をだまし取る「ニセ警察詐欺」では、30歳代以下の被害が全体の3割を占める。

こうした実態がある中で、「電話de詐欺」などへの不安は、第1回調査の6位から5位に順位が上がったものの、不安を感じている人の割合が依然低いことは今後の課題といえる。リスクに応じて適切に警戒する「正しく怖がる」姿勢が求められる。

(鈴木あい・津田塾大総合政策学部専任講師)

## リスク応じ適切な警戒 重要

全国的に被害が問題となっているのが「電話de詐欺」だ。県内の25年の被害額は前年比1.7倍の73億3850万円、統計を取り始めた04年以降最悪となった。件数は前年比27%増の1206件だった。

これまで高齢者が主な標的とされてきたが、被害は若年層にも拡大。偽造した警察手帳や逮捕状をSNS上で示して金をだまし取る「ニセ警察詐欺」では、30歳代以下の被害が全体の3割を占める。

こうした実態がある中で、「電話de詐欺」などへの不安は、第1回調査の6位から5位に順位が上がったものの、不安を感じている人の割合が依然低いことは今後の課題といえる。リスクに応じて適切に警戒する「正しく怖がる」姿勢が求められる。

(鈴木あい・津田塾大総合政策学部専任講師)